

高知県在宅医療推進フォーラム

自分と自分の大切な人のために考える人生会議（Advance Care Planning：ACP）

高知県は全国に先行して少子高齢化、人口減少が進展しています。県民が「地域で安心して住み続けられる県づくり」を実現するためには、病気や高齢になっても必要な医療や介護が提供できる体制づくりと県民の心構えが必要となっています。

また、2024年度の診療報酬改定では、原則すべての医療機関において、厚生労働省（2018）「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスガイドライン」等の内容を踏まえ、適切な意思決定支援に関する指針を定めることが義務づけられ、医療機関と地域の情報共有や連携も求められています。

意思決定支援のプロセスである ACP の取り組みは高知県（健康政策部 在宅療養推進課・子ども福祉政策部 長寿社会課等）はじめ各市町村でも取り組まれているところです。しかし現状ではまだまだこの取り組みは一般の方々には浸透していません。

今回の在宅医療推進フォーラムは高知県立大学看護部看護学科准教授森下幸子先生に企画・立案をお願いしました。テーマは「自分の思いどおりの“しまい方”」です。「ご本人を主体とした人生の最終段階の意思決定支援の考え方や実践」について、支援者と共にこれから向かう人生 100 年時代の自分らしい「しまい方」を自分事として考え、在宅医療のあるべき姿を描く機会としたいと考えます。

フォーラム前半は、会田薫子先生（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任教授）に「ACP の考え方と実践・本人を人として尊重する意思決定支援」と題した講演をしていただきます。会田先生は臨床倫理・死生学、医療社会学をご専門とされ、人生の最終段階の医療・ケアのあるべき姿について研究、セミナー、著書等を通して課題や対策を数多く提言されています。

フォーラム後半は、医師・訪問看護師・ケアマネジャー・社会福祉士等の多職種でシンポジウムを行います。地域の課題を踏まえた上で、多職種で「自分の思いどおりの“しまい方”」をどう支えているかについて実情をご紹介します。

県民のみなさまを含めた参加者とともに、高知県での「自分らしい生活」を支えていくための多職種協働の取り組みについてディスカッションしたいと思います。

高知県医師会常任理事 伊与木増喜